

地すべり地形分布図の高度利活用に向けた取り組み

マルチハザードリスク評価研究部門 佐藤昌人

Point

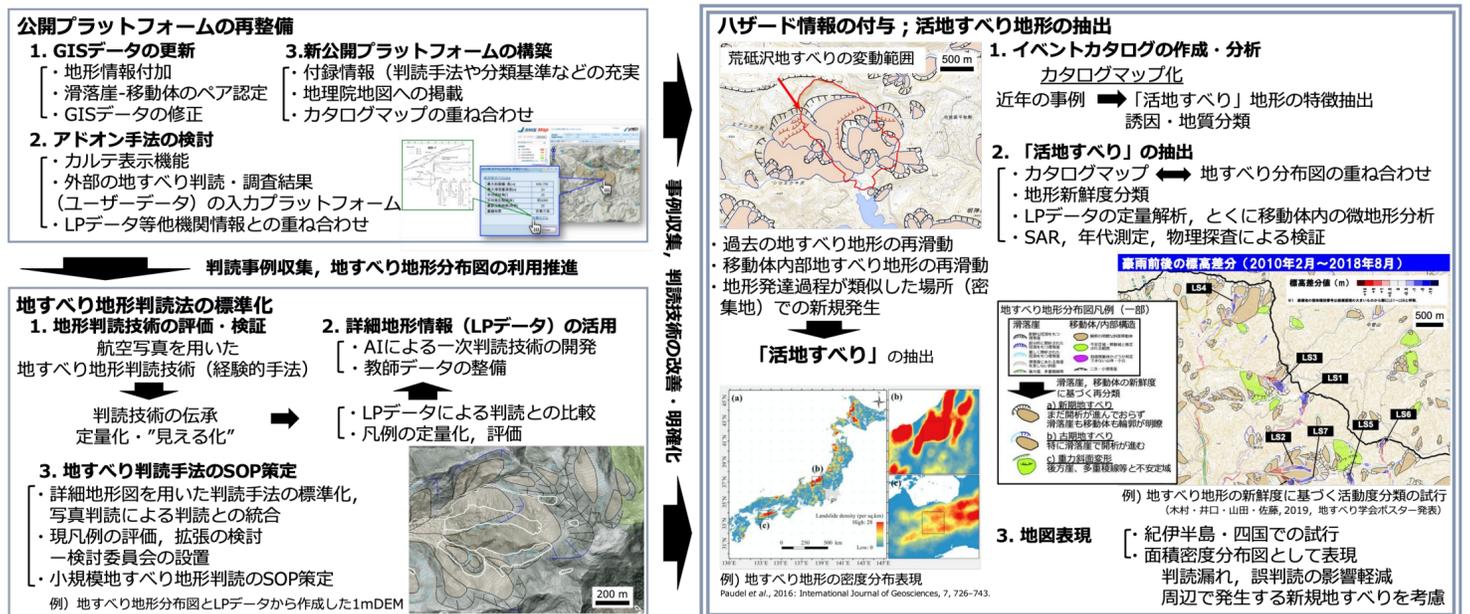
- 地すべり地形から「活地すべり」地形へ
- 地形量に基づく地すべり地形の危険度評価
- イベントカタログ作成および評価手法の検証

研究の領域



概要

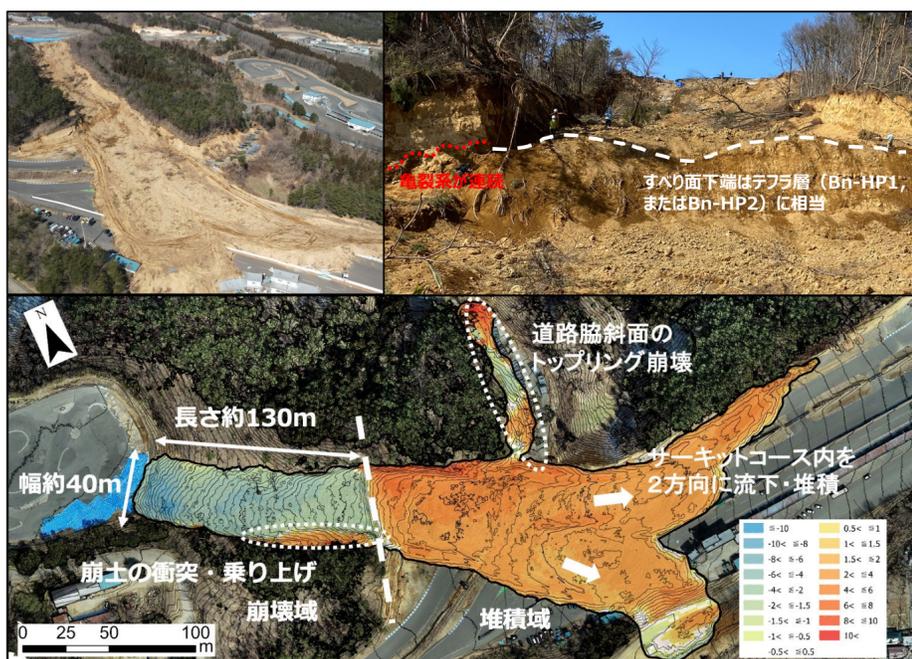
防災科学技術研究所「1:50,000地すべり地形分布図」(以下、地すべり地形分布図)は過去の地すべりの痕跡を判読した主題地形図である。地すべり地形分布図に記載された約40万個の地すべり地形から、活動度が高く再滑動の危険性が高い地すべり「活地すべり」を抽出することを目的として、危険度評価手法の開発、検証のためのイベントカタログ作成及び収集、現地での詳細調査を継続的に実施している。



地すべり地形分布図の高度利活用に向けた取り組み

今後の展望・方向性

大正関東地震や濃尾地震などM8クラス地震、宝永地震など過去の南海トラフ地震により発生したとされる事例を中心に、イベント収集を継続している。現地での詳細調査による変動メカニズムの推定、UAV・GNSSによる地すべり変動の時空間的評価と合わせて、再滑動しやすい地すべり地形の地形・地質的特徴を把握・集積する。



2021年2月福島県沖地震により発生したテラス層すべり(福島県二本松市)の緊急調査(地すべり学会東北支部合同)

